

神仏というものは、我々のこの五官では絶対に捉えられない。姿も見ることが出来ない。声も聴く事が出来ない」

と、高橋先生が仰る。——中々分からないですね。

それからもう遮二無二いろんな事をやっていった訳です。

七、行動開始——施設回り

そして、ズーッと高橋先生の話の聴いていると、その時には物凄く心が安らぐんですね。何か自分が、雲の上に乗ったような気がする訳です。

しかし、その場から一步外に出たら、もうその安らぎが無くなってしまいう訳です。

「あれえ、何で無くなるのかな」と、またそれで疑問を持ったんですね。——これは、「何かやりなさい」という事じゃないのかなと思つた訳です。

それで、そういう反省を通して、「私はお蔭様でこうして生活が出来る。しかし、世

の中には、もっと私より不幸な人がいるんじゃないだろうか」と、何だかこう、生意氣ぶつた事を思うようになった訳ですね。

そして、そういう場所を調べ始めた。ところが、中々分からない。調べているうちに、役所で老人の施設があるということを知りましてね、自分の仕事の合間に時間を造って、施設を回り始めたんですね。

初めに行った老人の施設では、毎月一回、その月の誕生日のご老人達に、お祝いを持つて行ったりしていたんですね。

そのうち、高橋先生の話をも、老人の施設の皆さんに聴いて貰ったら良いんじゃないかなと思ひ、施設長にお願ひしてみた、

「実は、私は宗教団体とは一切が関係御座いませんが、『人間というものは、斯く有るべきである』という事を話されている方の処に、私は聴きに行つております。

その方の話を是非、お年寄りの皆さんに聴かせてあげたいんですね、いけませんでしょうか」

と、もう一所懸命に頼み込んだ訳ですよ。

何回か行ってるうちに、私の話が、そういう巷ちまたの宗教団体みたいな話ではないということが分かったんでしょね。その施設長が、「そういう話なら結構けっこうです。是非ぜひやってく下さい」と仰おんってくださったんですね。

それで、私が喋しゃべる訳わけにいきませんから、高橋信次先生の話を録音ろくおんしたものを持って行った訳わけですね。そしてテープを掛けた。

そうしたら、お年寄り達は、高橋先生の講演こうえんテープを掛けると、一所懸命いそけんに聴きいてくれるんですね。

それを二ヶ月、三ヶ月、四ヶ月と続けていった頃に、「私も少しは、話が出るんじゃないかな」と思った訳わけです。で、自分で話してみた訳わけですね。

ところが、まあ、精々せいせい一五分か二〇分、そのくらいが精一杯せいいつぱいですね。しかし、話はなしをする事は出来た。出来たと言っても、私の話ではなくて、高橋先生の話を聴きいたものを言いっている訳わけですから、まあ、高橋先生のようにはいかないけれども、皆みなさん聴きいてくれるようになったんですね。

そういう一つの施設でも、未だいまに高橋先生の本を読み、『心行しんぎょう』（高橋信次著／宇宙うちゅうの神理しんりⅡ絶対ぜつたいの理ことわり、人間の心を言霊ことたまによって表現ひょうげんした心こころと行おこないの書しよ）を読み、一所懸命いそけんにやっているお年寄りもいらっしやる訳わけですよ。

やはり、縁えんというものは、そういう施設の中だからいないということはいきり切きれないですね。

そういう施設に行いって、お話をさせて貰もらったけれども、実は反対はんたいにもっと素晴すばらしいものを、私は教おしわっていったんだということに気が付ついてきた訳わけです。

それは、人間が年を取とった時の姿すがた・考かんえ——そういうものは、そこに行いかなかつたら分わからなかつた訳わけですね。そういう人が沢山集あつまった中は、どのようになつていくのか、知らない間にそれを吸収きゅうしゅうしていった訳わけです。

そうすると、私わたしが行いって話はなしたのではなくて、それを媒体ばいたいにして、実は私わたしが教おしわりに行いっていた訳わけですね。

世よの中には、「あれは不必要ふひつよう」だと思おもうような、いろんなものが沢山あつありますよ。しかし、人間にとつて不必要ふひつようなものは、何一つとして無いのですよ。全部ぜんぶ、自分かみに係か

わり合いのあるものだから、目の前に出て来る訳です。

そうすると、自分の五官で捉えるものは、全部、私達の心の糧となるものばかりな
んですね。

人間の眼というものは、高橋先生の話にもありますように、四千オングストローム
(周波数) から七千オングストロームという、大体、虹の色ぐらいの幅だけしか見
えないんですね。

しかし、そういうものが混じり合った色というものは、この色の世界(この世の事)
——人間の体というものは、この眼でいろんなものを見ている訳ですね。しかし、
その見る眼というものは、よく見ると小さな瞳だけですね。それが約三万色の色を捉
えている訳ですよ。三万色といったら大変ですよ。

今度は耳にしてもそうですね。人間の言葉というものは、言葉を発すると、一秒間
に約四〇〇メートル位の速さで、波動になって伝わっていく訳です。それをキャッ
チする訳ですよ。

そういうものが、実は精子と卵子が結合して、核分裂を起こして出来る訳です。

これは人間には造れませんよね。そういうものが、私達には備わっているんです。
備わっているということは、やはり自分が、いろんな事を見聞きする事が必要だか
ら、そうなるのであって、自分に必要だと思っているのは、自分のエゴなんです
ね。自分に都合の良い事だけを考えると、必要なものが沢山起きてくるんですね。

私は高橋先生の話の中から、そういう事を、まあ、牛の如く一つ／＼吸収してい
ったんですね。偉い人達はみんなどん／＼分かるけれども、私は分からない。もうと
にかく、一つ／＼確実に掴んでいった。

次回に続く——次回更新予定は、二月中旬頃です。